

令和2年度 第9回 昭島市社会教育委員会会議・要点録

開催日時／会 場 令和2年12月14日(月)午後7時00分～8時00分 アキシマエンス 302
出席者 谷部議長、松本副議長、稲垣委員、小原委員、齋藤委員、指田委員、
二ノ宮リム委員、信國委員、濱田委員、吉村委員
事務局 伊藤社会教育課長、川崎社会教育係長、来住野社会教育主事

1 開 会

＜配付資料＞

資料1 令和3年度社会教育関係団体補助金事務局案について

- ・月間行事予定 12月
- ・あきしまの教育 第102号
- ・公民館だより No.201
- ・第38回子どもの主張意見文コンクール作品集 未来をひらく

2 議 題

(1) 令和3年度社会教育関係団体補助金事務局案について

議 長 社会教育関係団体の補助金は、昭島市社会教育関係団体補助金交付要綱に基づき、「社会教育委員会会議の意見を聞いて、補助金交付の内定を行い、補助金額等を内示するものとする。」となっていることから、事務局案についてご意見があればお願いしたい。

事務局 新型コロナウイルスは、人々の関係だけでなく税金にも大きな影響をもたらしている。昨年度と比較して、約5～10%減額で積算している。

委 員 今年度は軒並み活動が停滞し、予算が余ると推察されるが、すべて返還されるか。

事務局 活動の執行状況や繰越金の額などから執行率を算出し、次年度繰越金における補助金額の割合が規定を上回るとき、あるいは、事業費執行率が規定を下回るときは、返還金が生じる。今年は軒並み返還になるのではと思う。今回の減額はあくまで新型コロナウイルスの影響によるもので、社会情勢が元に戻れば補助金の額も戻していく考えだ。

委 員 税金の減が大きいということがわかった。

議 長 その他特に意見がなければ、承認ということでよいか。

※ 異議なし

3 協 議

(1) 市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議について

事務局 あきしま会議の話の前に、前回の会議の中で話題に出た「参加のはしご」について補足していただく。

委 員 今回配布されている「参画のはしご」の図は、以前、社会教育委員会会議で主催した研修会の中で紹介されたものだが、それが掲載されたロジャー・ハート氏の著書「子ども

の参画」の日本語翻訳版が 2000 年に出版されたことから、国内で広く知られている。その原型は、1969 年にシェリー・アーンスタインという人が発表した「市民参加のはしご」という論文にあり、もともとは市民・住民の参画についての段階を示すもので、子どもだけの話ではないということだ。このはしごの図では、上段にいくにつれて「非参加の段階」から「参加の段階」へと度合いが高まっていくのだが、①から③は参加をしていると見せかけて実は参加をしていない「非参加」の状態を示している。例えば、何かの報告書などに子供たちや住民などがいかにも参加したように書いてあるが実際には本人たちにその認識がないとか、その場にはいたが発言の機会は全くなかったというような、本当は参加していないのだが参加したように見せかけられている状況をさしている。④から⑧は参加の段階に入ってくる。④では誰かに役割を与えられて参加する、⑤では意見を言える、⑥では一緒に決定権を持つことができるという段階を示す。⑦は、市民主導で物事が進んでいく状況。さらに⑧は、市民主導だが市民だけで何かをやっているということではなく、権力を巻き込んでいる状況。つまり、市民が何かをするときに、権力を持つ組織や人、例えば行政を巻き込んでいる、市民が自らの決定に従って行動を起こすなかで行政の力を活用したり、あるいは行政の仕組みそのものを変えたりしながら地域をよくしていくというような、行政に対するパワーを市民が持っている状況のことだ。子供の場合は、子供だけがやるのではなく大人が巻き込まれている、大人が子供たちに協力している状況で、子供たちが変える力を持つのが最上段ということになる。単に市民だけ、子供だけの「自助」「共助」でやればいいというのではなく、公も含めた仕組みを変えるとか、力のある人々や組織を巻き込んでいくような参画の可能性を示すものだ。

昨今では、行政・学校・企業など公的な力を持つ組織によって SDGs が大々的に推進されているが、ともすると、その裏で、市民がこれまで脈々と積み上げてきた学習活動が軽視されたり、市民の蓄積が権力の都合のよいように利用されたりする状況があることが、先日ある研究会の中で指摘された。これは、まさに「非参加」の状態についての懸念だといえる。

委員 改めて、参加のはしごについて確認できた。

事務局 これまで市民の方に参加していただく場として「あきしま会議」を 4 回やってきたが、今回はオンラインでの開催について検討したい。案としては、ウェブ会議システムを使って、これまでの参加者を中心に 10 名の報告者を募り、1 グループ 5 名で 5 グループという構成を考えている。今までやってきたものよりコンパクトにはなる。新型コロナウイルスの状況もあるので、例えば次回の会議をオンラインで実施することも考えたいと思っている。

委員 やってみるのがいいと思う。

委員 事前にやってみるのもよい。

委員 新しい体験はしてみたい。

委員 Zoom は慣れてきたが、タイムラグが生じることもあり慣れていくしかないと思う。

議長 では、新しい方法での検討を来月以降進めていきたい。

4 報 告

(1) 令和3年度関東甲信越静社会教育研究大会（新潟大会）について

事務局 新型コロナウイルス感染拡大防止対策で、参加対象を新潟県の社会教育委員のみとし、予定を縮小して無事開催された。大会の様子は、12月31日までインターネット上の動画でご覧いただける。

(2) その他

事務局 新春体力づくり歩け歩け大会、新春駅伝競走大会、新春たこあげ大会、いずれも中止が決定した。

次回

1月21日（木）午後7時より オンライン、または、市役所庁議室

2月22日（月）午後7時より オンライン、または、市役所205会議室